

HITACHI
Inspire the Next

交通関連データの活用が産む新しい価値

2014/4/21

(株)日立製作所 情報・通信システム社 上席研究員
経団連 インターネットエコノミー作業部会 主査
日本プロジェクト産業協議会(JAPIC) 理事
筑波大学 客員教授

梶浦 敏範

1. データを活用した価値創造



ヒトやモノの活動を中心に捉え
企業間のデータを連携
そこから、生まれる新しい価値

電力会社、
ホームメーカー



家庭内の活動

ネット事業者



バーチャルな
活動

自動車メーカー



クルマでの移動

鉄道事業者



鉄道での移動

一般企業



企業内での
活動

通信事業者



携帯電話の利用

病院



病院での診断

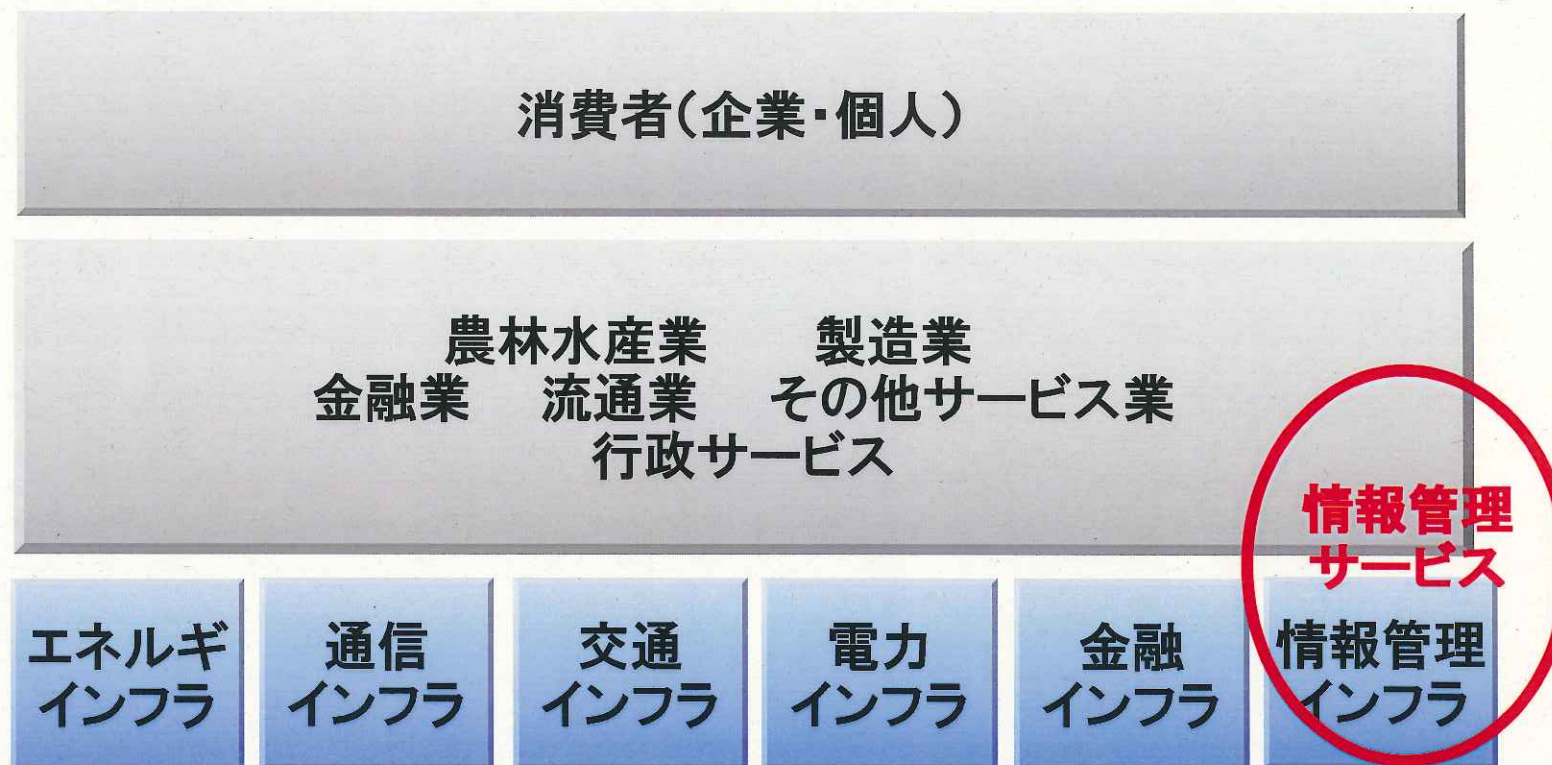
流通業



店舗での
お買い物

2. 情報管理サービスという産業があれば

● 新しい社会インフラとしての期待



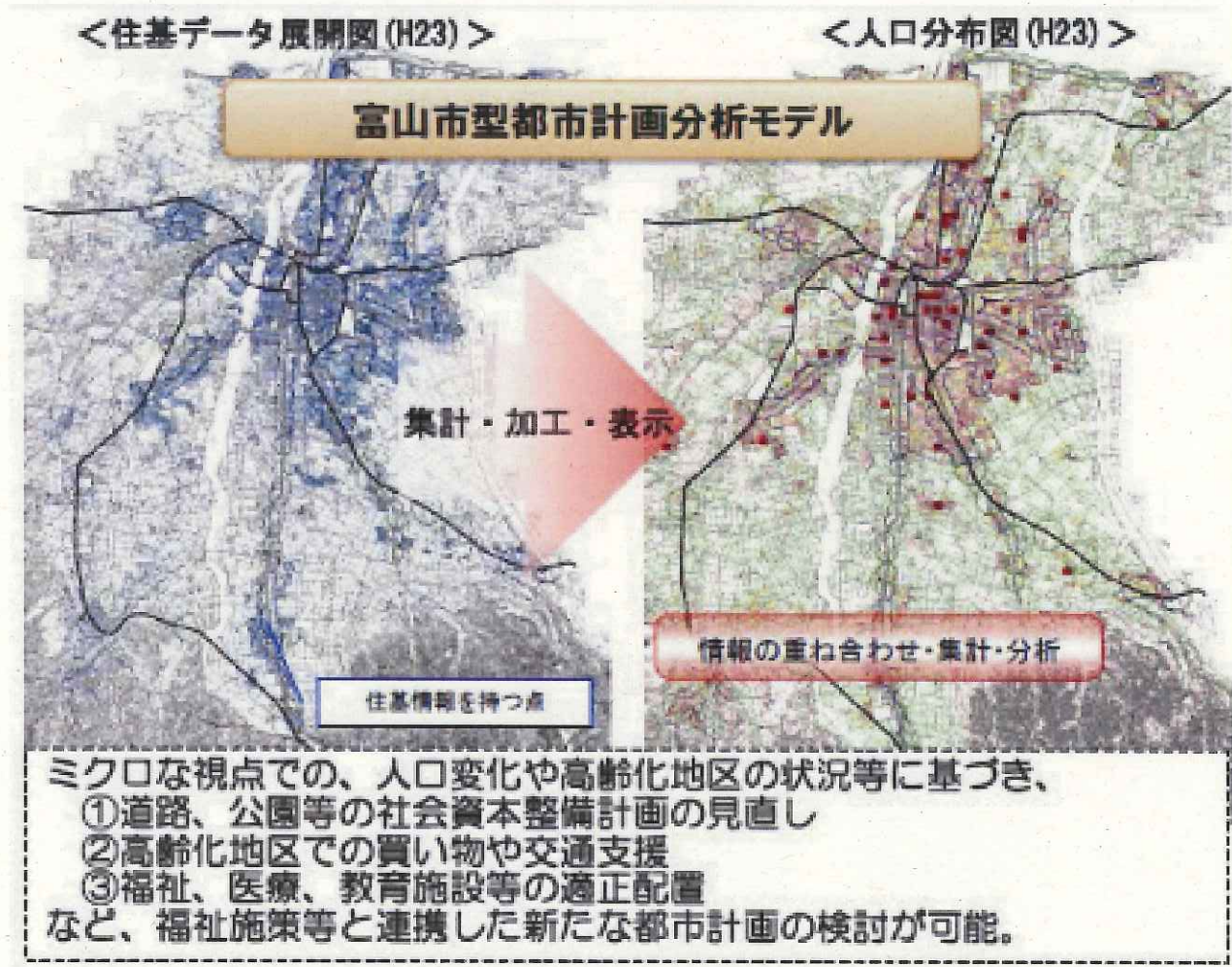
新しいインフラ産業が「共通基盤」を運営し、他の産業を強化する

3. 情報活用の先行事例

● 住民基本台帳情報をデジタル地図上に展開

住民基本台帳情報のGISへの展開

都市再生計画のコンセンサス



総務省「平成25年版情報通信白書」より

3. 情報活用の先行事例

- 地下の図面を複数機関で共有
→行政、企業の双方にとって新たなメリット



破断事故のリスク低減
工事申請処理の効率化
災害復旧の迅速化

3. 情報活用の先行事例

● 競合他社とも「情報共有」する国際物流

☆完成車輸送：水島⇒ベルギー
（自動車の完成車輸出）



- ・現場作業の負担軽減
- ・物流の全体最適
（エコ・生産性向上）

■表示・測位機能付ICタグ

国際的な相互運用性・実践性、
国際標準規格の確立
空間コードを活用した実証

☆コンテナ輸送：上海・煙台⇒博多・門司・東京
（精密機械・食品の資材輸入）



- ・物流の全体最適
- ・輸送情報の遡及性向上
- ・悪用防止、盗難偽造対策

■コンテナ輸送用ICタグ

2011年までに実証実験終了、2015年の実稼動を目指す

http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/policyreports/joho_tsusin/ict_imp/pdf/080124_2_s3.pdf

4. 都市広域の交通関連データの活用に向けて

- 福岡都市圏において、福岡地域戦略推進協議会(福岡DC)が実証実験を実施
 - スマートフォンのプローブデータ(位置・加速度)から移動手段を自動で識別
 - バス・自動車・バイク・歩行を識別可能。今後、鉄道・自転車の識別を予定
 - 位置情報が取得できない地下鉄の情報を実験用交通系ICカードから取得



交通センサス・パーソントリップ調査を、補完・拡張できるのではないか？

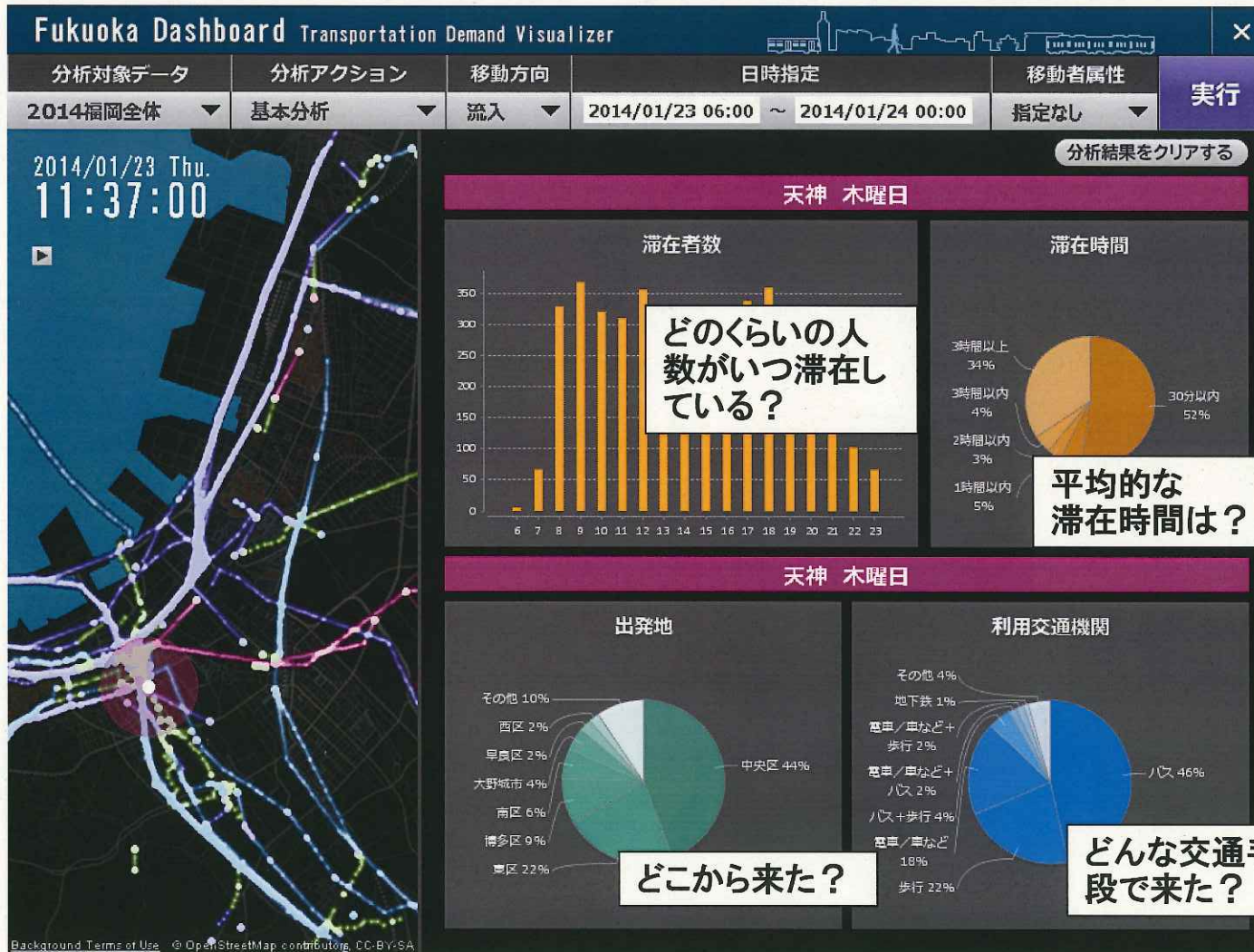
福岡DC会員有志200名のプローブ情報を ビジュアル化しました。 (平日と休日の違いをご覧ください)

<実験概要>

- ・実施主体:福岡地域戦略推進協議会(福岡DC)
- ・実施時期:2014年1月23日~30日
- ・実施方法:福岡DC会員の構成団体に属する200名に事前に了解を得て、実験用スマートフォン(プローブ専用アプリケーション搭載)と実験用に用意された交通ICカードを配付し、1週間の行動履歴情報を収集、分析を実施。
- ・プライバシー保護の取り組み
 - ・情報提供者に対し、事前に情報提供と移動情報の開示につき了解を取得。
 - ・情報提供者が情報提供したくない場合は位置情報の記録を行わないよう、アプリにGPSデータ記録のON/OFF機能を搭載。
 - ・分析者は、個人情報の紐付けのない匿名化されたスマートフォン・ICカードのデータのみを入手し、分析を実施。

4. 都市広域の交通関連情報の活用に向けて

- 滞留場所と滞留場所間の移動を分析、各地区の特性を「見える化」
- 各地区の流入・流出交通手段も把握。交通・観光行政や民間での利活用へ



■ 交通・観光行政

- ・交通インフラ整備の基礎情報
- ・プロモーション企画のヒント

■ 来訪者支援

- ・観光拠点のナビゲーション
- ・周遊コースや行き先の推薦

5. 交通関連情報の活用が産む新しい価値



業界全体の
国際競争力強化

コンパクトシティ化等
地域再生の促進

成長戦略に資する
国土計画の遂行

金融含めた
新しい市場
の創造

安全・安心
の追求

6. 交通関連情報の活用に向けて取り組むべき課題

交通情報を共有・活用する中で、新しい価値を産む仮説の構築

官主導による共通IDや情報フォーマット標準化の推進

ステークホルダー間で閉じた、情報共有基盤のあり方の検討

「安全・安心」に関わる情報の収集・モニタリングの強化

交通関連情報をサービスする主体の可能性の追求

END

交通関連データの活用が産む新しい価値

2014/4/21